

実践英会話研修（自己紹介から相互コミュニケーションまで）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 太田, 諭之 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00028640">https://doi.org/10.14945/00028640</a>

# 実践英会話研修（自己紹介から相互コミュニケーションまで）

太田 諭之

静岡大学技術部情報部門

## 1 はじめに

近年、海外留学生や海外の研究者（教員）の増加により技術部職員においても英語による会話の機会が増えることが予想される。本研修は、ヴァレリ・ウィルキンソン名誉教授（元 静岡大学情報学部教授、現 非常勤講師（Professor emerita V.A. Wilkinson））に講師を務めて頂き、参加者に UN17 SDGs（国連の持続可能な開発目標；The 17 Goals- Sustainable Development Goals）についてプレゼンテーションを行い、技術的な英語能力の上昇を図るものである。1 週間、受講者の方に静岡大学 ID（静大 ID）でログインする Microsoft® Stream にて約 40 分間のオンデマンドビデオを視聴頂き、プレゼンテーションを作成頂いた。

後日、参加者より自分自身の生活や仕事の中から SDGs に関連するものについて Zoom リアルタイムオンラインにて発表頂いた。

## 2 研修内容

研修の内容については次のとおりである。

### 2.1 この研修について（太田）

本研修について内容・スケジュール等の説明を行った。

### 2.2 グローバル時代に英語を学ぶ理由について（ウィルキンソン講師）

動画の中で講師より、「静岡大学の多くの職員は、クラブ備品の使用方法や学習のための居室の申し込み方法、助成金か奨学金の申請方法を求め窓口へ来る学生や留学生に実際に会っています。それで職員の皆さんはこれらの質問に答えることができるはずですが、もちろん、私たちは学生が十分な日本語を扱えるために学ぶことを期待していましたが、状況の繊細さについてあなたが英語で説明する方法について少し知っているほど、学生がより積極的に交流するのに役立つのです。」（原文：“Many staff people at Shizuoka University the admin, they actually meet to students, international students people who come to the desk requesting information about how to use the club equipment or how to sign up to use a room or study or how can they apply for grants or fellowship. And staff members should be able to answer the questions. Of course, we expected students to learn enough Japanese to manage but the delicacy of the situation is the better you know a little bit about how to explain in English more helpful more positive your interaction the students will be.”）とあった。また、留学生など接する際のキーワードを示された。“Find out what is needed（何が何かを見つけること）”、“Request information（情報を求めること）”、“Give information（情報を与えること）”、“Understand the situation（状況を理解する）”である。「直感」や「想像力」の必要性についても言及された。

### 2.3 持続可能な開発目標 17 のゴールについて（ウィルキンソン講師）

講師より、「17 の目標には 3 つ基本的な焦点があります。1 つ目は『社会』、2 つ目は『経済』、3 つ目は『環境』です。『社会』、『環境』と『経済』は、生命と地球が持続可能であることができるようにバランスをとるために協力する必要があります。重要な言葉は持続可能です。持続可能は、私たちが一年一年（立ち止まらないで）続けられることを意味しています。」（原文：“You see those seventeen goals have three basic focus. The first one is society, and the second one is the economy and the third one is the environment. The society and environment and economy need to cooperate to have a balance so the life and the planet can be sustainable. The important

word is sustainable. Sustainable means we can keep going year after year.”) と説明があった。



図 1 : 本研修の動画 (Microsoft® Stream 動画画面)

#### 2.4 オンデマンド動画とプレゼンテーションについての日程 (太田)

参加者へオンデマンドクラスビデオ視聴期間 (2021 年 9 月 21 日から 27 日まで) にプレゼンテーションをそれぞれ作成頂いた。参加者が作成されたプレゼンテーションの発表は、Zoom リアルタイムオンラインにて 2021 年 9 月 28 日 10:00 より実施した。

#### 2.5 受講者の発表 (Zoom リアルタイムオンライン) より

プレゼンテーションの発表時間は一人当たり 15 分と設定した。発表順については当日ランダムで決定した。ポスター形式ではなく、パワーポイントスライドで複数枚のスライドで作成をお願いし、発表の言語は原則として英語をお願いをしたが、専門用語などの難しい表現の箇所があった場合は、日本語の使用をお願いした。

参加者の発表内容の主なものは下記のとおりである。主に自分に関わりのある SDGs 17 の目標から複数を選び発表頂いた。

- 健康は生活の基盤で皆さんにとって重要です。
- 浜名湖の環境について考えている。地域の排水を綺麗にしたい。
- 湧き水を近くの山から汲んでいて、周りの環境や生態系を考えるきっかけとなっている。
- 教育については実践を重視している。学生さんへ答えを直接言うより思考の方法を伝えている。
- 子供向けのプログラミングを動画にて視聴できる。環境さえ整えられれば勉強ができるプログラミングをより多くの人に学んでもらいたい。
- お昼にはお弁当を持参している。包装パッケージをなるべく減らすことを心がけている。
- 食事の際、ゴミを減らす。食品は必要なものだけを買ひ、エコバッグを持参する。プラスチックも極力減らしていく。
- 機器分析センターを使用する学生さんの多くはメーカーへ就職している。学生さんは、産業をこれから担う人材です。
- 卒業生の活躍により働きがいを感じ、技術革新が得られると思う。

### 3 SDGs について



図 2: SDGs 17 の目標 (日本語版)

画像出典：外務省ホームページ

SDGs とは、持続可能な開発目標 (SDGs : Sustainable Development Goals) の英語表記の略語である。世界の危機的状況にある、「環境・社会・経済」という 3 側面から、包括的に課題を解決するための方策を示したもので、具体的には、1. 「世界共通で、最優先で解決すべき課題」を抽出し、2. 「望ましい将来像」を明示し、それに向けての 3. 「17 のゴール (達成目標)、と目標を具体化する 169 のターゲット (下位目標)、さらに、進捗状況をモニタリングするための 232 のインジケーター (指標)」を設定し、4. 「2030 年を達成年度」と定めている。

静岡大学は 2021 年 9 月 24 日に「静岡大学 SDGs 宣言」を公表している。静岡大学公式ホームページトップ、重要なお知らせ 2021/9/24 ; 『静岡大学 SDGs 宣言』を公表しました』を参照することができる。



図 3 : 本研修の様子 (Zoom 画面) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 研修参加者より画像の掲載許可を頂いております。

#### 4 研修後のアンケートより

本研修により、講師による SDGs に関する英語の説明について参加者と深い議論が出来た。また、参加者より自身と日々の暮らしや仕事の中での SDGs についての関わりについて聴講することができた。研修後のアンケートでは、「質問：この研修が役立った理由」の回答として、「日常生活で意識することのないテーマについて考えることができました」、「オンデマンド研修で英語を聞くだけでも、いい機会となりました」、「質問：研修について印象に残ったこと」の回答として、「SDGs を取り上げたこと。日本語でもあまり考えない内容であったので、改めて向き合う機会となりました」、「質問：今回の研修をご自身の職場で今後どう生かしたいですか？」の回答として、「留学生の対応で自己紹介することがあれば、今回考えた紹介文を使えたらと思います」などにご回答頂いた。今後は、研修参加者を増やすために、SDGs と業務をからめた技術的な研修を行うことを検討したい。

#### 5 謝辞

講師を快く引き受けて頂きました、ウィルキンソン名誉教授に深く感謝申し上げます。また、本研修にご参加いただきました、情報部門 戎 俊男様、嶋田 陽子様、教育研究第一部門 三宅 亜紀様（プレゼンテーション発表当日はご欠席のため太田が代読）より様々なご示唆を頂きました。感謝申し上げます。

#### 参考文献等

- [1] United Nations Homepage: <<https://www.un.org/sustainabledevelopment/news/communications-material/>>  
(2022 年 1 月 20 日データ取得)
- [2] The United Nations Statistics Division: <[https://ggim.un.org/documents/a\\_res\\_71\\_313.pdf](https://ggim.un.org/documents/a_res_71_313.pdf)>, 2015.
- [3] 外務省公式ホームページ SDGs とは: <<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>>  
(2022 年 1 月 20 日データ取得)
- [4] 静岡大学公式ホームページ ニュース一覧 <<https://www.shizuoka.ac.jp/news/detail.html?CN=7509>>  
(2022 年 1 月 20 日データ取得)
- [5] ピーターD. ピーターセン, 竹林 柁雄 編著: 「SDGs ビジネス戦略—企業と社会が共発展を遂げるための指南書」, 日刊工業新聞社, 2019.